



寅
二月
卯
早稲田分限
八分

一、東方文化運動會

一、明令禁止
分片包干

[illegible]

同治庚午年

一、李通院橋

一、此乃本館之入石回京款額也。

一、古者之服，或曰：「衣」。

一、吾人當以爲己之學，不以爲人。
古語云：『吾人當以爲己之學，不以爲人。』

アメリカ永年所長名義で署名
あつて

唐子厚

要事利祿
海軍總司令

海月道人書

宣和乙未年秋七月

校對圖名

大酒名區痛之

卷之四

丁元吉

一、才學為用

人生苦短 志在千里

五言古詩

入京の事

三石のふり

子

一 種 反 對 之 定 義 爲 難 是

五
五

五更天

五子齊名 子如二弟
出子如

法苑珠林

五

一 以中書省方戶司為之

知世一坪子 經皇恒 寶

蘇子瞻詩

[illegible]

園子

諸生例希

張以年上

丁卯二月
志長

上

一 事ヲカキテ海力水ヲ要スル

上高古月

師曰修德以寧邦

子好之者如不若者

山崎

一 檀弓行海盜習俗并彙疏

人之相與不能無

丁巳年

李又公

山上海濱分古洞物類全集

知不足齋叢書

ミヤウミメトクク

尸骸昇灰木桶ツケ下ケ

一、イキナ

物以類聚
物以類聚

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

分

一、東支店の設立の時期を決定する

三

一
上卷之九
中卷之九
下卷之九

乃以新丁奉命
 乃以新丁奉命

[illegible]

同 四 明

[illegible]

同方

同方廣風流

[illegible]

ト長子トは三四代子孫に
去るト云々

一 次子

ト云々

ト云々

ト云々

ト云々

ト云々

ト云々

ト云々

ト云々

ト云々

ト云々

ト云々

ト云々

ト云々

ト云々

ト云々

ト云々

因ヤカヤ

ト云々

ト云々

ト云々

ト云々

ト云々

ト云々

ト云々

ト云々

一 足輕は是れ一隊ありて
二 三つを率てていふなり其
一 つかみとゆふは口伝
よりあつたり下は
ちやうど一隊ありていふなり
はちやうど一隊ありていふなり

因下り

一 ちやうど一隊ありていふなり
即ち一隊ありていふなり
あつたり
一 ちやうど一隊ありていふなり
ちやうど一隊ありていふなり
ちやうど一隊ありていふなり
ちやうど一隊ありていふなり

因下り

一 ちやうど一隊ありていふなり
ちやうど一隊ありていふなり
ちやうど一隊ありていふなり
ちやうど一隊ありていふなり

因下り

因下り

一 ちやうど一隊ありていふなり
ちやうど一隊ありていふなり

ちやうど一隊ありていふなり

全五万七千七百七十七

割

全五万七千七百七十七

全五万七千七百七十七

全五万七千七百七十七

全五万七千七百七十七

平均

全五万七千七百七十七

全五万七千七百七十七

全五万七千七百七十七

全五万七千七百七十七

全五万七千七百七十七

全五万七千七百七十七

全五万七千七百七十七

全五万七千七百七十七

全五万七千七百七十七

全五万七千七百七十七

全五万七千七百七十七

全五万七千七百七十七

全五万七千七百七十七

全五万七千七百七十七

全五万七千七百七十七

全五万七千七百七十七

全五万七千七百七十七

全五万七千七百七十七

全五万七千七百七十七

全五万七千七百七十七

全五万七千七百七十七

全五万七千七百七十七

全五万七千七百七十七

因すてのて西風

一 丑刻外

上るるをてて極楽の事知れ
しとて

一寸とて余は極楽の事知れ

しとて極楽の事知れ
しとて

一 月夜

一 暁月

暁月

暁月

一 暁月

暁月

暁月

一 暁月

暁月

暁月

一 暁月

暁月

暁月

因すてのて西風

一 暁月

福之齋進委お存様へ藤用お
そふは寸可也幸甚幸甚と
中々存候と生誕

市有の御書もこれより一
の概ね思ふ所も申すに
たれども

三つさう 後述の如き
信じてゐる所
お多様も
おありの所

一 お書物の中へ亦お書き
入りの可き所

因すか水信祥

一 枯葉院様

御書物の中へ亦お書き
入りの可き所

一 お書物の中へ亦お書き
入りの可き所
生誕の御書もこれより一
の概ね思ふ所も申すに
たれども

一 お書物の中へ亦お書き
入りの可き所

一 お書物の中へ亦お書き
入りの可き所

因すか水信祥

一 お書物の中へ亦お書き
入りの可き所

江戸七草

一 入冬名物 麩 麩 麩

一 江戸名物 麩 麩 麩

一 江戸名物 麩 麩 麩

一 江戸名物 麩 麩 麩

一 江戸名物 麩 麩 麩

一 江戸名物 麩 麩 麩

一 江戸名物 麩 麩 麩

江戸名物 麩 麩 麩

一 江戸名物 麩 麩 麩

一 江戸名物 麩 麩 麩

一 江戸名物 麩 麩 麩

一 江戸名物 麩 麩 麩

一 江戸名物 麩 麩 麩

一 江戸名物 麩 麩 麩

一 江戸名物 麩 麩 麩

一 江戸名物 麩 麩 麩

江戸名物 麩 麩 麩

一 江戸名物 麩 麩 麩

一 江戸名物 麩 麩 麩

一 江戸名物 麩 麩 麩

一 江戸名物 麩 麩 麩

一 江戸名物 麩 麩 麩

一 江戸名物 麩 麩 麩

玄那僧正云

一人に云ふ

言ふは

より降りて

一 おもひ

一 ひと

一 言ふは

なり

一 邪を云ふは、一は云ふは、
邪に云ふは、一は云ふは、

因事云々

一 事云々、一は云ふは、
一は云ふは、一は云ふは、

一は云ふは、一は云ふは、

一は云ふは、一は云ふは、

一は云ふは、一は云ふは、

一は云ふは、一は云ふは、

一は云ふは、一は云ふは、

一は云ふは、一は云ふは、

一は云ふは、一は云ふは、

一は云ふは、一は云ふは、

一 一は云ふは、一は云ふは、

一は云ふは、一は云ふは、

一は云ふは、一は云ふは、

因事云々

一は云ふは、一は云ふは、

一は云ふは、一は云ふは、

一は云ふは、一は云ふは、

月夜多折人
 入宮中

一 心 智 同 友 友 友

折
山

我升平

芳城 三田信子
大田信子

哲之 名田宗子

一
の要申事は、恒常人口を多し
くばつてゐる。

おとうさん、おはよう。

入宮年十有
原

五言古詩一首

一、

辰

二山同產石以名而石以佐
出

一平身外、まろ下、新着、

此卷之書

高晉名氏之清志

外史

一、
三、
五、
七、
九、

國府の威

一 讀書在平日

五石齋

一令

師範

詞作

清江雜記

江陰代

いふ事あり

中書省

（親王の御方） 永野を以て
（中書省） 中書省の御方

（中書省）

（中書省）

（中書省）

（中書省）

（中書省）

（中書省）

（中書省）

（中書省）

（中書省）

（中書省）

（中書省）

（中書省）

（中書省）

（中書省）

（中書省）

（中書省）

（中書省）

（中書省）

（中書省）

（中書省）

（中書省）

（中書省）

（中書省）

（中書省）

（中書省）

（中書省）

（中書省）

（中書省）

いふはふとふとふとふとふと
たふとふとふとふとふとふと
ふとふとふとふとふとふと

仰ぐふとふと

たふとふとふとふとふとふと

一 細細とふとふとふとふとふと

細細とふとふとふとふとふと

仰相ふとふとふとふとふと

一 細細とふとふとふとふと

一 細細とふとふとふとふと

細細とふとふとふとふと

細細とふとふとふとふと

細細とふとふとふとふと

細細とふとふとふとふと

國事 六 倭國公室

一 細細とふとふとふとふと

一 細細とふとふとふとふと

細細とふとふとふとふと

細細とふとふとふとふと

一 細細とふとふとふとふと

細細とふとふとふとふと

細細とふとふとふとふと

一 細細とふとふとふとふと

細細とふとふとふとふと

國事 六

一 細細とふとふとふとふと

細細とふとふとふとふと

一 細細とふとふとふとふと

細細とふとふとふとふと

細細とふとふとふとふと

細細とふとふとふとふと

[illegible]

○小身者戦場ニ入るカケカ持ス
一スニカイヤヌ一也命ノカケカヘソ
ハモテタキモノ也或はウツクシク
堅クストモ命ハカリハ堅クサラヌモ
ノ也考ヘ知ルベシ

